（別紙様式4）
【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年6月30日
（前回公表年月日：令和4年6月13日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東京医薬看護専門学校	昭和58年12月23日	須田　英明	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 （電話）03-3688-6161
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟　邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 （電話）03-5878-3311

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	歯科衛生士科	平成27年文部科学大臣 告示第13号	―

学科の目的	歯科衛生士科は、スペシャリストとしての基本スキルとマインドを修得し、連携教育を能動的に学び、他のスタッフと協働できる歯科衛生士を輩出する。
認定年月日	平成30年2月27日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	2565時間	1140時間	525時間	900時間	―	―
		単位時間					

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内数）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240人	192人	0人	8人	60人	68人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 学年末、各学期末、各科目の開講後に行う定期試験（論文、レポートなどを含む）、平素の学習状況（小テスト、中間試験、臨時試験等を含む）、出席状況の3要素で総合的に勘案し評価する。評価はA～Fの6段階評価とし、D以上を合格とする。教育効果、科目特性を考慮し、S（合格）、U（不合格）の合否のみで評価を行う場合がある。
長期休み	■学年始め：4月 1日 ■夏　季：7月21日～8月31日 ■冬　季：12月21日～1月 9日 ■春　季：3月12日～4月 7日 ■学 年 末：3月31日	卒業・進級条件	1つの学期ごとに全科目A・B・C・D・Sの評価を得た者は、必要時間数取得者となり、学校長が適当と認めた者は進級することができる。また、卒業時までに全科目を履修し、各学年において必要時間数を取得し、学校長が適当と認めた者は卒業となる。
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 日々の出欠管理からモチベーションの把握 長期欠席者への支援等の対応 個別にプログラムを立て対応	課外活動	■課外活動の種類 江戸川区立下鎌田小学校での歯磨き教室 株式会社LION学童歯磨き大会 歯科関連企業セミナー、近隣保育園児への職業体験運営 ■サークル活動：　無
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） 歯科医院 ■就職指導内容（令和4年度卒業生実績） 複数の歯科医院に来校いただき、説明会の実施 履歴書指導、面接練習 ■卒業者数：42 人 ■就職希望者数：37 人 ■就職者数：37 人 ■就職率：100 % ■卒業者に占める就職者の割合：88.1 % ■その他 % ・進学 ・婚姻 ・育児 （令和 4 年度卒業者に関する 令和5年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報） 資格・検定名／種別／受験者数／合格者数 歯科衛生士／②／42／41人 口腔ケア5級／③／40人／35人 上級救命講習／③／43人／43人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄
中途退学の現状	■中途退学者 8 名　■中退率 4.9 % （令和5年5月1日時点の情報） 令和4年4月1日時点において、在学者162名（令和4年4月1日入学者を含む） 令和5年3月31日時点において、在学者154名（令和5年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 目的の喪失、進路変更他 ■中退防止・中退者支援のための取組 目的意識の明確化、導入教育等で相互支援関係の構築、学習サポートのための補習、個別面談の実施、保護者と連携、精神的サポートを行うスチューデントサポートセンターの活用		

経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:　　有 特待生制度　:特待生試験に合格した者は、20万円または5万円の免除 兄弟姉妹免除:入学予定の方の兄弟・姉妹・保護者の方が滋慶学園グループ校に在籍または卒業している場合、初年度の学費より10万円を免除 卒業生免除　:入学生本人が滋慶学園グループを卒業している場合、入学金の10万円を免除 ■専門実践教育訓練給付:　　給付対象
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:　　有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) 特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構、平成26年4月、http://www.tcm.ac.jp/school/third_party/
当該学科のホームページURL	URL: http://www.tcm.ac.jp

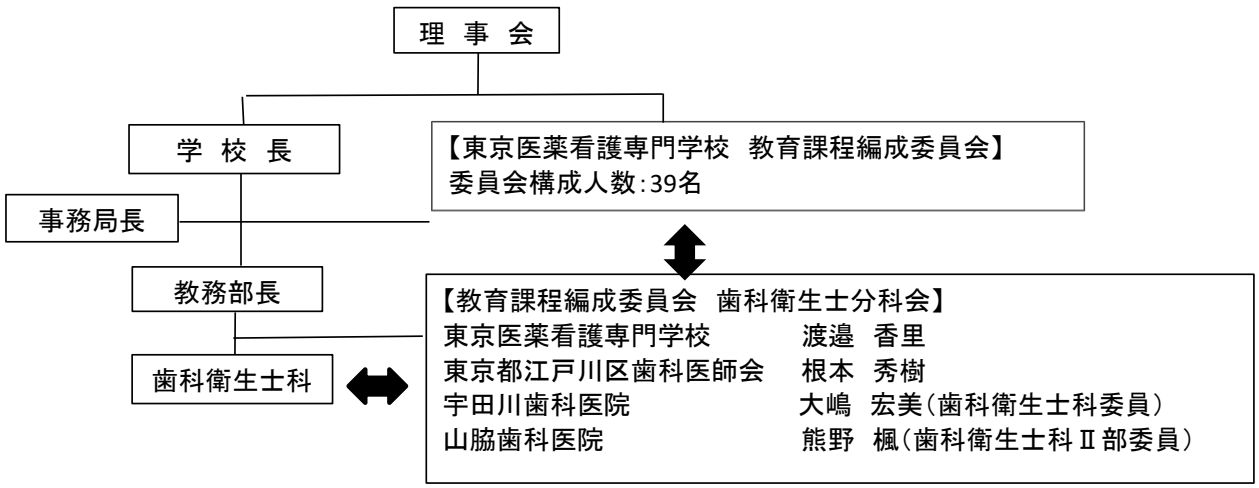
1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

教育課程の編成において、必要となる最新の知識、技術を反映するため、企業・業界団体等の意見を活かし、教育課程の改善並びに改訂を定期的に実施することを目的とする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、教育課程を決定する「理事会」の直下に位置付けられ、教育課程編成委員会で出された意見は、理事会において審議され、教育課程へ反映される。



（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
古島 昭博	学校法人滋慶学園 常務理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
須田 英明	東京医薬看護専門学校 学校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
一宮 頼子	東京医薬看護専門学校 副校長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
小川 昭久	学校法人滋慶学園 運営本部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
篠田 美和	東京医薬看護専門学校 事務局長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
仁村 将大	東京医薬看護専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
大山 遥	東京医薬看護専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
阿部 健	東京医薬看護専門学校 教務部長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
持田 和夫	東京医薬看護専門学校 くすり総合学科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
工藤 孝	東京医薬看護専門学校 化粧品総合学科 学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
大野 光宣	東京医薬看護専門学校 化粧品総合学科 ｴｷｽﾊﾟｰﾄﾘｰﾀﾞｰ	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
小泉 恭野	東京医薬看護専門学校 医療事務総合学科・IT医療事務総合学科・医療事務専科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
島滝 美奈子	東京医薬看護専門学校 医療事務総合学科・IT医療事務総合学科・医療事務専科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
田中 美月	東京医薬看護専門学校 医療事務総合学科・IT医療事務総合学科・医療事務専科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
内藤 修治	東京医薬看護専門学校 言語聴覚士科・言語聴覚士科2年制 学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
塚山 大成	東京医薬看護専門学校 視能訓練士科・視能訓練士科1年制 学科長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	
鈴木 まゆ	東京医薬看護専門学校 視能訓練士科・視能訓練士科1年制 リーダー	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
常盤 純子	東京医薬看護専門学校 視能訓練士科	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
露無 陽子	東京医薬看護専門学校 視能訓練士科1年制	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
鈴木 崇洋	東京医薬看護専門学校 臨床工学技士科 学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
藤崎 隆行	東京医薬看護専門学校 救急救命士科 学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
渡邉 香里	東京医薬看護専門学校 歯科衛生士科・歯科衛生士科Ⅱ部 学科長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
石本 良之	医療秘書教育全国協議会 事務局長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②
鹿沼 亮	IMSグループ 医療法人財団明理会 行徳総合病院医事課 係長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
篠原 陽子	日本チェーンドラッグストア協会ﾍﾙｽ・ｱﾝﾄﾞ・ﾋﾞｭｰﾃｨｰｹｱ 人材育成ｾﾝﾀｰ事務局長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
沖山 貴仁	(株)MCCマネジメント 営業企画本部 オンラインビジネス部 オンラインビジネス課	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
池田 昭	ノーベルファーマ株式会社	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
飯田 将一	中央エアゾール化学株式会社 研究開発室 課長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
矢田 綾香	一般社団法人 日本化粧品検定協会 顧問	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	②
長岡 雄一	東京視覚障害者生活支援センター 所長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	②

丸林　彩子	埼玉医科大学総合医療センター主任　視能訓練士	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
三浦　國男	一般社団法人　千葉県臨床工学技士会　監事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
近藤　敏哉	医療法人鉄蕉会　亀田総合病院　医療技術部　ME室　副室長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
澁谷　和俊	東邦大学医学部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
治田　寛之	千葉県言語聴覚士会　　理事	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
高添　真吾	医療法人社団武蔵野会TMG宗岡中央病院リハビリテーション科主任	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
根本　秀樹	江戸川区歯科医師会　副会長	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	①
大嶋　宏美	宇田川歯科医院　チーフ　歯科衛生士	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③
熊野　楓	山脇歯科医院　歯科衛生士	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（令和4年度）
第1回　令和4年 6月29日　13:30～15:00
第2回　令和4年10月26日　13:30～15:00
2回開催

（令和5年度）
第1回　令和5年 6月28日　13:30～15:00
第2回　令和5年10月25日　13:30～15:00
2回開催（予定）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会において、臨床実習における実習の配当、実習時の学生の対応、態度に対し、必要な準備指導が必要というご意見をいただいている。また、求められる歯科衛生士像についてご意見をいただき、カリキュラムに反映をしている。一昨年度の教育課程編成委員会で委員の先生方に「歯科衛生士の専門性」についてご意見をいただいた。
また、学生の自己肯定感が年々低くなっていること、学習意欲の継続が難しいこと、基礎学力が低下していることを踏まえ、【楽しい学び】を実施してきた。しかし、入学動機となった関連の授業が2年生までなく、1年生の中途退学者防止が課題となっていた。委員会の意見では、「バランスの良い歯科衛生士の養成も非常に重要だが、〇〇に強い歯科衛生士の養成という形で考えても良いのではないか」というご意見をいただいた。そこで本年度より3つの選択必修型授業を実施することとなった。
また、インプットした知識をアウトプットすること、誰かに教えることが知識の定着に繋がることを体現するため近隣の保育園や地域の小学生向けに健康教育や職業体験を通じて、歯科衛生士としてのやりがいや学習意欲の低下防止のプログラムを実施することにした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本科では、「多様化する地域住民のニーズ（要望）に応えられるよう、多（他）職種と連携しながら自らの専門性を発揮できる歯科衛生士を養成する。」ことを養成目的としている。そのため、机上で学ぶことのできない歯科衛生士に必要な知識と技能および態度を身につけることを基本方針として実習を行っている。
具体的には、患者様への接し方や学んだ知識、手技を実習指導者の指導下に実施し、歯科衛生士に必要な基礎的な職業教育を実践する場として施設を選定している。実習先は、基本的に2人の実習生を配当し、実習を行う。
実習評価として、歯科医師、実習指導担当の歯科衛生士より、実習者の態度・言葉遣い・身だしなみ・知識の習得・技術の修得・実習日誌の記録に対し、企業等からの課題も踏まえ、指導、評価をいただいている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

実習担当教員が、実習期間中に1～2回訪問し、歯科医師、実習指導担当の歯科衛生士から実習学生一人ひとりの状況のフィードバックを受け、実習の評価項目に照らし、学修成果を確認する。確認した学修成果から、歯科医師、実習指導担当の歯科衛生士とともに、実習方法、内容を再検討し、より効果的な実習になるよう連携を行う。また、担当教員は、日常的な指導をしつつ、実習指導をいただく担当歯科衛生士と連携し、実習運営を行う。実習評価は、学科で作成した評価表の項目に照らし、1～4点で評価をいただく。実習の単位認定は、病院または施設で作成された評価表ならびに担当教員が実施する実習前後の試験結果と合わせて単位認定を行う。

（3）具体的な連携

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
臨地実習Ⅰ （歯科医院）	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下に見学や実践を行い、歯科診療の流れや歯科衛生士の役割を学ぶ。	医療法人社団尚歯会　プラーレ歯科医院 医療法人社団公悠会　野口歯科医院 医療法人社団泉昌会　飯田橋内科歯科クリニック　　他19施設
臨地実習Ⅱ （歯科医院）	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下に見学や実践を行い、これまでの学習を総合的に捉え、知識や手技の実際を認識する。	医療法人明徳会福岡歯科　郵船ビル院 医療法人社団爽晴会　あおぞら歯科クリニック新館 みき歯科クリニック　　他19施設
臨地実習Ⅲ （歯科医院）	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下で歯科衛生士業務の実践を行い、歯科衛生過程に則って患者個別の状況に合わせた介入を行う知識や技術を向上させる。	医療法人社団フロンティア山脇歯科医院 かつらやま歯科医院 医療法人社団MMT　長浦マリン 他20施設
臨地実習Ⅳ （大学病院、施設等）	主に歯科大学病院、保育園、各種社会福祉施設等での実習を通じて、地域住民の様々なニーズに、多職種との連携をもって対応するための知識、技術を学ぶ。	日本歯科大学付属病院、地域活動・支援センター－かさい、特別養護老人ホーム泰山、にじのいるか保育園千石、にじのいるか保育園小石川　他23施設

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

学園の研修規定に基づき、教員の指導力の向上、授業力向上、クラス運営力の向上などを目的として研修計画の作成を行う。研修計画については外部機関も活用し、必要な知識や技術を向上できるように体系的に作成を行う。研修実施に際しては、教員個々の現場経験や教育経験、また学園在籍期間等を考慮し、それぞれの対象に応じた到達目標を設定し、研修方法や評価指標を的確に定め実施する。

（2）研修等の実績（令和4年度）

①専攻分野における実務に関する研修等

令和4年12月19日　　主催：株式会社モリタ
対象：本科教員
歯科衛生士学校教員向けWEBセミナー
「先生のためのプロケア パウダークリーニングの基本とセルフケアアイテム活用術」

②指導力の修得・向上のための研修等

令和4年7月6日「国家試験対策研修」　　講師：滋慶科学研究所　稲岡隆輔様
対象：本科教員
グループ校のスケールメリットを活かした国家試験対策について学ぶ。
国家試験の対策としての模擬試験作成等のブラッシュアップや作問の検討等を実際に行い、その活用について学ぶ。
歯科衛生士国家試験だけでなく、他の国家資格の対策等を学ぶことにより、自校の国家試験対策をどのように行うかを考える研修。合格までの道のりをどう支え、導くのかを検討する機会となっている。

（3）研修等の計画（令和5年度予定）

①専攻分野における実務に関する研修等

令和6年1月21日（日）「はじめよう! 障害者歯科研修会」
講師：①「障害のある方に対する歯科診療」 関口五郎（当センター　歯科医師）
　　②「障害のある方に対する歯科診療補助」 岡田友香（当センター　歯科衛生士）
歯科医師・歯科医療従事者向けの集団研修として、医療のバリアフリー化を目指す取り組みについて学ぶ。
スペシャルニーズの患者様への対応と個の特性を活用したQOL向上に寄与できる歯科衛生士となり、学生教育に還元する。

②指導力の修得・向上のための研修等

令和5年7月4日「国家試験対策研修」　　講師：滋慶科学研究所　稲岡隆輔様
対象：本科教員
グループ校のスケールメリットを活かした国家試験対策について学ぶ。
国家試験の対策としての模擬試験作成等のブラッシュアップや作問の検討等を実際に行い、その活用について学ぶ。
歯科衛生士国家試験だけでなく、他の国家資格の対策等を学ぶことにより、自校の国家試験対策をどのように行うかを考える研修。合格までの道のりをどう支え、導くのかを検討する機会となっている。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目的・育成人材像	（1）教育理念・目的・育成人材像
（2）学校運営	（2）運営方針・事業計画・システム
（3）教育活動	（3）教育目標・カリキュラム体系・成績評価・資格取得
（4）学修成果	（4）就職率・資格取得率・社会的評価
（5）学生支援	（5）就職指導・生活支援・経済的支援
（6）教育環境	（6）施設設備・学外実習・安全管理
（7）学生の募集と受入れ	（7）募集活動・入学選考・学納金
（8）財務	（8）予算・収支計画・情報公開
（9）法令等の遵守	（9）法令遵守・個人情報保護・自己点検・自己評価
（10）社会貢献・地域貢献	（10）社会貢献・地域貢献・ボランティア活動
（11）国際交流	（11）国際交流・留学生

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会で得た評価に基づき、校内の自己点検委員会で次年度の重点項目について見当を行う。検討した事項について令和6年1月の運営会議に諮り、2月下旬までに次年度の重点項目を決定し、事業計画に反映させ次年度の学校運営を行っていく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
加藤　亮	医療法人社団同愛会病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	業界代表
古川　哲也	医療法人柏葉会柏戸病院	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
室岡　孝二	江戸川区学校歯科医会	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
手塚　平	株式会社粘土科学研究所	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
嶋本　智明	株式会社コクミン	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	
森　章	拓植大学紅陵高等学校	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	高等学校代表
鈴木　信良	江戸川区葛西仲町町会	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域代表
橋本　敦	一般社団法人TMG本部	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	卒業生代表
大塚　めぐみ	本校歯科衛生士科在校生　保護者	令和4年4月1日～令和6年3月31日(2年)	保護者代表

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）

URL：　https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/info.html　　公表時期：　令和5年6月30日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の教育活動の取り組みについて社会に対する説明責任を果たすとともに、構成で透明性の高い運営を推進し、教育活動の室の向上や社会全体からの信頼の獲得に資することを目的とする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	（1）学校概要、目標及び計画
（2）各学科等の教育	（2）各学科の教育
（3）教職員	（3）教職員組織
（4）キャリア教育・実践的職業教育	（4）キャリア教育・実践的職業教育
（5）様々な教育活動・教育環境	（5）様々な教育活動・教育環境
（6）学生の生活支援	（6）学生の生活支援
（7）学生納付金・修学支援	（7）学生納付金・修学支援
（8）学校の財務	（8）学校の財務
（9）学校評価	（9）学校評価
（10）国際連携の状況	（10）国際連携の状況
（11）その他	（11）防災（職員の校内体制、避難場所）

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

URL： https://www.tcm.ac.jp/school/public_info/info.html

授業科目等の概要

(医療専門課程　歯科衛生士科)令和4年度生

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			生物学 Biology	人体構造の最小単位である細胞と各種の役割について理解し、生命の成り立ちについて理解を深める。	1前	15	1	○			○			○	
○			化学 Chemistry	基本的な化学的知識を整理し、科学的思考を身に付ける。	1前	15	1	○			○			○	
○			英会話 English Conversation	英語を通して異文化に対する理解を深め、歯科医院に来院する外国人の患者に安心して受診していただくために必要なコミュニケーションを身に付ける。	1後	15	1	○			○			○	
○			歯科医療倫理学 Dental Medical Ethics	医療人として必要な倫理観について理解し、常に患者を思いやる気持ちで、医療に臨む姿勢を身に付ける。	1前	15	1	○			○			○	
○			コミュニケーション論 Communication Theory	コミュニケーション能力の「聞く」「話す」「読む」「書く」の能力を向上させる。患者の気持ちを読み取り、安心を与えられる言葉かけで、信頼関係を構築できるスキルを修得する。	1前	30	2		○		○			○	
○			キャリアデザインⅠ Career Design Ⅰ	自己理解と他者理解の大切さを知り、協働するための基礎を学ぶ。行動科学を用いてセルフコントロールとマネージメントを学ぶ。	1通	30	2	○			○			○	
○			キャリアデザインⅡ Career Design Ⅱ	自己理解と他者理解を深め、協働するための基礎を学ぶ。臨床の場を想定し、演習形式で自分の行動を考えることで身構え・気構え・心構えといった態度を修得する。	2前	15	1	○			○		○		
○			キャリアデザインⅢ Career Design Ⅲ	自己理解と他者理解を深め、協働するための基礎を学ぶ。臨床の場で学んだことを振り返り、自分の課題発見を行う。将来、歯科衛生士となった際のキャリアをデザインする。	3前	15	1	○			○		○		
○			一般解剖学 (組織発生学含む) General Anatomy	人体の構造（骨格、筋肉、脈管系、神経系、内臓系）と機能について体系的に理解し、歯科口腔領域との関連性について学ぶ。	1前	30	2	○			○		○		
○			生理学 Physiology	人体の全身における諸機能について理解し、歯科口腔領域との関連性について学ぶ。	1前	15	1	○			○			○	
○			生化学 Biochemistry	生体内における化学反応（呼吸、消化、内分泌系等）について学び、生体維持のしくみを理解する。	1前	15	1	○			○			○	
○			口腔解剖学(歯牙解剖学含む) Oral Anatomy	顎・顔面・口腔領域に特化した組織や器官の構造と機能について理解する。また、各種歯牙の形態、構造、機能について理解し、立体的再現を修得する。	1後	30	2	○			○			○	
○			口腔生理学 Oral Physiology	口腔領域に特化した口腔の諸機能について学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			口腔生化学 Biochemistry and Molecular Dentistry	口腔領域に特化した生化学、特に唾液の化学構造、う蝕の発生進行に関わる化学反応や摂食嚥下機能に関わる仕組みについて学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
○			病理学 Pathology	全身や口腔の組織に発生する疾病の成り立ちから治癒に至るしくみを理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			薬理学 Pharmacology	薬物の薬理作用を理解し、安全かつ効果的に使用するための知識を学ぶ。また、歯科医療に用いられる各種薬剤についても学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			微生物学 Microbiology	微生物全般の基礎的な知識を理解し、微生物が引き起こす全身疾患ならびに歯科口腔領域に特化した疾患について理解する。	1後	30	2	○			○			○	
○			口腔衛生学Ⅰ Oral HealthⅠ	口腔の健康を保持増進するための意義とその手法について、各種法令や科学的根拠を裏付けながら学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	
○			口腔衛生学(衛生統計学含む)Ⅱ Oral HealthⅡ (Hygiene statistics)	口腔の健康を保持増進するための意義とその手法について、各種法令や科学的根拠を裏付けながら学ぶ。口腔保健に関係する統計から社会全体の流れや傾向を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
○			衛生学・公衆衛生学 Hygiene /Public Health	地域社会における疾病の予防、身体的、精神的機能の健康の保持増進をはかる手法と社会的仕組みを学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
○			衛生行政・社会福祉学 Public Health Administration / Social Service	衛生業務、医療に関わる各種法令と社会的仕組みとの関わりを学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
○			歯科衛生学総論 Introduction to dental hygiene	歯科医療業界の歴史やトレンドを学び、歯科衛生士業務や役割について学ぶ。また、将来像を明確にしモチベーションを向上する。	1前	15	1	○			○			○	
○			歯科臨床概論 Introduction to Clinical Dentistry	歯科疾患ならびに歯科医療の概要を学び、診療の流れとそれに関わる歯科衛生士の役割を理解する。	1前	15	1	○			○		○		
○			保存修復学 Conservation restoration science	歯牙の硬組織における疾患の修復方法について学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			歯内療法学 Endodontic Therapy	歯牙の硬組織における疾患の歯内療法について学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○			歯周治療学 Periodontics	歯周組織における疾患の原因、診断、治療、予防の方法について学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			歯科補綴学 Prosthodontics	口腔領域において喪失した機能を補う方法や、人工物の作成過程について理解するとともに、歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			口腔外科学 Oral Surgery	口腔領域の外科的処置を必要とする疾患ならびに傷病の原因、診断、治療、麻酔の方法について学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			小児歯科学 Pedodontics	発育期における歯科口腔領域の特徴と、小児の全身的、心理的特徴を学ぶとともに、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			歯科矯正学 Orthodontic	矯正治療が必要な病態について理解し、診断、治療、予後における歯科衛生士の役割とその業務について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○			高齢者歯科学 Dental Care for Aged	高齢者の身体的、心理的特徴ならびに歯科口腔領域における特徴を理解し、その歯科治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			障害者歯科学 Special Needs Dentistry	様々な心身障害や疾病について学び、障害者の心身的特徴を理解し、歯科治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○			歯科予防処置論Ⅰ Prophylactic Treatment Ⅰ	歯科二大疾患（う蝕・歯周病）の予防に必要な知識ならびに予防機序を学び、その処置（主として予防的歯石除去）に関わる技術を修得する。主にマネキン上での操作ができる。	1前	60	4	○			○			○	
○			歯科予防処置論Ⅱ Prophylactic Treatment Ⅱ	歯科二大疾患（う蝕・歯周病）の予防に必要な知識ならびに予防機序を学び、その処置（主として予防的歯石除去）に関わる技術を修得する。実際の患者を想定した操作ができる。	1後	60	4		○		○			○	
○			歯科予防処置論Ⅲ Prophylactic Treatment Ⅲ	歯科二大疾患（う蝕・歯周病）の予防に必要な知識ならびに予防機序を学び、その処置（主としてう蝕予防）に関わる技術を修得する。実際の患者を想定した操作ができる。	2前	60	4		○		○			○	
○			歯科衛生学実践 Dental Hygiene Practice	歯科衛生士の3大業務を総合的に学び、プロフェッショナルケアとホームケアのサイクルを回していくことで口腔清掃の維持ができることを体現する。また、歯科衛生過程のサイクルを理解し、長期的なケアプランを立案し実践する。	3前	60	4		○		○			○	
○			歯科保健指導論Ⅰ Dental Hygiene Instruction Ⅰ	患者の健康に関わり一員としての責任を感じながら歯科衛生士の業務を学ぶ。口腔清掃用具の名称、用途、特徴等を深く学び、どのような方に使用したら効果的かを考察できる。	1前	30	2		○		○		○		
○			歯科保健指導論Ⅱ Dental Hygiene Instruction Ⅱ	健康的な生活や人体の状況を理解し、ライフステージやライフスタイル、個人が抱える問題に適した歯科保健行動の変容を促す知識、技術を修得する。	1後	30	2		○		○			○	
○			歯科保健指導論Ⅲ Dental Hygiene Instruction Ⅲ	集団指導、個人指導とそれぞれの場面において対象者に則した歯科保健指導を行う。適した媒体の作成を通じて対象者理解を深める。	2前	30	2		○		○			○	
○			歯科衛生過程 Dental hygiene process	歯科衛生士が行う口腔衛生管理を科学的根拠に基づき、実践できるように学問として学ぶ。	2後	15	1		○		○		○		
○			栄養指導 Nutrition Guidance	生命維持に必要な栄養摂取と口腔疾患との関係を学ぶ。併せて口腔摂取困難者における栄養摂取指導法についても学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			口腔ケア Oral Health Care	口腔清掃を目的とした器質的口腔ケアについての理論と技術を学ぶとともに、口腔ケア5級認定試験合格を目指す。	2前	15	1	○			○			○	
○			歯科介護学 Dental care	高齢者の特徴を全身、口腔の両面から把握し、在宅診療時に適切な摂食嚥下機能訓練ができることを目指す。	3前	15	1		○		○			○	
○			歯科診療補助論Ⅰ Assisting for Dental PracticeⅠ	歯科診療における患者、術者双方の安全確保を前提とし、診療の流れに則した歯科診療の補助を行うための知識、技術を修得する。	1前	60	4		○		○			○	
○			歯科診療補助論Ⅱ Assisting for Dental PracticeⅡ	歯科材料の取り扱いを通じて、歯科診療の多様性を感じ、各種材料の特徴や正しい操作法を学ぶ。	1後	60	4		○		○			○	
○			歯科診療補助論Ⅲ Assisting for Dental PracticeⅢ	歯科診療の流れから歯科衛生士の役割を学び、適切な介助、補助を修得する。臨床実習に備え、基礎的な動きを学ぶ。	2前	60	4	○			○			○	
○			医療安全学 Medical Safety Science	患者、術者双方にとって安全な歯科医療現場の環境を整え、医療事故を未然に防ぐための知識と技術を修得する。	2前	15	1	○			○			○	
○			歯科放射線学 Dental Radiology	放射線の基本的知識を正しく理解し、歯科医療におけるエックス線撮影補助について学ぶ。また、歯科疾患予防において必要なエックス線画像の読影方法を修得する。	2前	15	1			○		○	○	○	○
○			歯科材料学 Dental materials science	歯科で取り扱う材料について、特徴や使用方法を実践的に学び、操作できることを目指す。	1後	15	1			○		○	○	○	○
○			臨地実習Ⅰ Clinical TrainingⅠ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下に見学や実践を行い、歯科診療の流れや歯科衛生士の役割を学ぶ。	2後	135	3			○		○	○	○	○
○			臨地実習Ⅱ Clinical TrainingⅡ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下に見学や実践を行い、これまでの学習を総合的に捉え、知識や手技の実際を認識する。	2後	270	6			○		○	○	○	○
○			臨地実習Ⅲ Clinical TrainingⅢ	主に一般歯科診療所において担当指導者の指導の下で歯科衛生士業務の実践を行い、歯科衛生過程に則って患者個別の状況に合わせた介入を行う知識や技術を向上させる。	3前	360	8	○			○			○	
○			臨地実習Ⅳ Clinical TrainingⅣ	主に歯科大学病院、保育園、社会福祉施設等での実習を通じて、地域住民の様々なニーズに対応するための知識、技術を多職種との連携を図りながら学ぶ。	3後	135	3	○			○			○	
○			審美歯科 Cosmetic Dentistry	ホワイトニングやセラミック素材等を用いて、専ら審美的回復を目的とした治療法について学び、その過程における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	
○			インプラント Implantation	歯科インプラント治療に用いられる各種器材の保管、管理、術式における衛生管理等について学び、その治療における歯科衛生士の役割と業務について学ぶ。	2後	15	1	○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			歯科看護学 （臨床検査含む） Dental Nursing Science (Clinical examination)	各種検査方法ならびにそれより得られた結果と健康的な人体の適正範囲を照らし合わせ、情報を活用する方法を修得する。また、看護のケアプランに基づいた対応法を学ぶ。	2前	15	1	○			○		○	○	
○			歯科衛生総合演習Ⅰ （基礎科目系） General dental hygiene exerciseⅠ	基礎科目の総復習を科目横断型で学び理解を深める。臨床現場で見てきたことをベースに主体的に学ぶ。	3後	60	4	○			○		○	○	
○			歯科衛生総合演習Ⅱ （臨床科目系） General dental hygiene exerciseⅡ	歯科診療科目の総復習を科目横断型で学び理解を深める。臨床現場での実際の治療、処置をベースに主体的に学ぶ。	3後	60	4	○			○		○	○	
○			歯科衛生総合演習Ⅲ （歯科衛生士業務系） General dental hygiene exerciseⅢ	歯科衛生士業務系の総復習を学問として学ぶ。臨床現場で見てきたものや取り扱ったものについてを主体的に学ぶ。	3後	75	5	○			○		○	○	
○			歯科現場学	地域貢献プログラムを通じて、コミュニケーションスキルを向上し、歯科衛生士の職業理解を深める。	1後	30	2	○			○		○		
	○		ホワイトニング	施術前のカウンセリングに必要なコミュニケーションや、ホワイトニングの基礎知識を学ぶ。LIPエステ・口内マッサージ、ホワイトニングのメカニズムと安全性等を学び、ホワイトニングの施術の流れを学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
	○		小児食育	歯と食育が密接に関わっていること、顎の発達や歯の成長段階における食事の選択について学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
	○		歯はならびコーディネート	矯正歯科における歯科衛生士の役割、代表的な歯列不正や不正咬合について、今流行りのマウスピース矯正について学ぶ。	1後	15	1	○			○			○	
合計				63科目	2595時間（133単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
当該学年に取得すべき科目を全て履修し、評価認定をされたものが進級できる。2565時間を履修し、評価認定されたものが卒業できる。	1学年の学期区分	2 期
	1学期の授業期間	15 週